

令和6年度第3回名寄市地域公共交通活性化協議会 **てん末**

日 時：令和6年6月20日（木）

13時30分～14時20分

場 所：駅前交流プラザよろーな中会議室

- 1 開 会
- 2 会長挨拶
- 3 協議事項

（1）市外連絡バス（地域間幹線系統等）の最適化（案）について 資料1 資料2

→事務局より資料を用いて説明。

→地域間幹線系統等は国、北海道及び他自治体と協調して補助を行い運行されている。方向性は北海道上川地域公共交通計画で示されている。利用動態や意向調査については、北海道上川地域公共交通計画のデータを活用し、他自治体と情報共有を行いながら最適化を検討する。

【質疑応答】

→国、北海道の補助要件はなにか、自治体間の協定期間中に国・北海道の補助が非該当になる場合はあるのか。（委員）

→さまざまな要件があるが、乗車量という指標の15人以上／便（国）、10人以上／便（北海道）が基準となる。協定期間内でも国、北海道補助要件を満たさなければ、非該当となる。

→協定期間内でも、補助非該当となった場合に路線の見直し、廃止をするなどのルールはあるのか。（委員）

→どの場合に見直し検討するなどのルールは決まっていない。（事務局）

（2）市内路線・市街地間・郊外デマンドバスの最適化（案）について 資料3

→事務局より資料を用いて説明。

→各路線での課題を解消し最適化するために実態調査を行う。

【質疑応答】

→智恵文医療バスは無料で利用できるのか。通院するという証明は必要となるのか。（委員）

→智恵文の診療所がなくなった代替手段として導入したため無料で乗車できる。運用として通院することの証明は必要としていない。（事務局）

→各路線について、国・北海道の補助要件に該当・非該当となる場合など、見直し検討を行う場合のルール設定が必要ではないか。（委員）

→乗車密度に変動があった場合に車両の大きさや運行形態の変更を検討するなど、見直し検討のルールを定めている自治体もある。（アドバイザー）

→定期的なデータ分析、ニーズ調査を行い、利用者の動向変化を確認しながら都度最適化を検討する必要がある。（委員）

→名寄地区内の移動手段集約については、現状の路線の平均値ではなく、ピークの乗車人数等のデータ分析を行う必要がある。バスという方法だけではなく、コストや利用者ニーズを比較しタクシー助成という方法も検討にいれては如何か。（アドバイザー）

- 4 その他
- 5 閉 会